

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策I-3-1  
地域資源を活用した観光地づくりの推進

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 観光振興課長 木次 淳 電話番号 0852-22-5625

事務事業の名称	しまね観光誘客推進事業		
目的	(1) 対象	さまざまな観光ニーズを持つ人々	
	(2) 意図	個別課題に応じた観光誘客対策を進め、島根県への観光誘客を促進することで、観光産業の発展を図る	
事業概要	【県内地域支援対策】石見地域、隠岐地域の誘客促進を図るため、両地域の取組みに対し、支援を行う。 【閑散期観光誘客対策】冬季を中心とした閑散期の誘客を促進するため、出雲、石見、隠岐エリアごとに閑散期の取組みに対し、支援を行う。 【観光案内板等基盤整備支援】市町村等が行うトイレ、観光案内板やWi-Fi整備への支援を行う。 【広域商品開発支援】行政の枠組みにとられない広域的な観光振興事業を実施する団体への支援を行う。 【高速道路対策】高速道路活用による観光誘客を促進するため、情報発信等を実施する。		

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名 観光入り込み客延べ数	目標値	33,370.0	33,530.0	33,690.0	33,850.0	34,000.0	千人	
	式・定義 毎年の観光動態調査結果	取組目標値							
			実績値	33,171.0	33,119.0	32,303.0			
			達成率	99.5	98.8	95.9	-	-	%
2	指標名	目標値							
	式・定義	取組目標値							
			実績値						
			達成率	-	-	-	-	%	

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	188,210	204,807
うち一般財源(千円)	166,056	187,419

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

## 5. 評価時点での現状 (客観的事実・データなどに基づいた現状)

【県内地域支援対策】	石見地域観光入込客数 (H27: 6,505千人→H28: 6,365千人→H29: 6,060千人) 隠岐地域観光入込客数 (H27: 220千人→H28: 217千人→H29: 186千人)
【閑散期誘客対策】	観光入込客数 7~9月平均 3,109人、12~2月平均 2,153千人 (H29)
【観光案内板等基盤整備支援】	H29実績: トイレ整備3件、公衆無線LAN整備1件
【高速道路対策】	しまねパーフェクトガイドマップを465千部作成し、高速道路SA、道の駅、コンビニ等で配架 NEXCO西日本が実施する「ぶらり中国ドライブバス」利用件数 H28: 16,700件 → H29: 33,211件 (対前年費約1.8倍)

## 6. 成果があったこと (改善されたこと)

【県内地域支援対策】 ○石見・隠岐地域の広域観光団体へ支援を実施し、イベント開催、メディアを活用した情報発信など、地域の特徴に合わせた事業展開により一定程度の誘客効果を得た 【閑散期対策】 ○エージェントへのインセンティブ付与による誘客(全県)、温泉をテーマにした誘客キャンペーン(石見)、地元食材を活用したおもてなしイベント(隠岐)を実施することにより、冬期の誘客を一定程度下支えできた。 【高速道路対策】 ○「ぶらり中国ドライブ」を利用して周遊観光する人が大幅に増加。中国エリアの立寄先1位: 出雲大社(前年同)
---

## 7. まだ残っている課題 (現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」 【県内地域支援対策】 ○個々の観光施設が小規模でかつ広域エリアに点在しており、周遊コースが確立されていない。また、県外での知名度が低い ○県外からのアクセスが分りにくい 【閑散期対策】 県外の観光地との差別化ができておらず、十分な集客につながらない 【観光案内板等基盤整備支援】 公衆トイレ等観光基盤の整備が十分ではない。
②困っている状況が発生している「原因」 【県内地域支援対策】 ○旧来型の観光誘客から脱却できておらず、地域資源を活用した着地型観光商品づくりが不十分 ○マスメディアなど旧来のチャンネルに依存した情報発信から脱却できてない 【閑散期対策】 一過性のキャンペーン、イベントに依存。地域資源を活用した観光商品づくりの視点が弱い 【観光案内板等基盤整備支援】 施設の老朽化、市町村の財源不足のほか、公衆無線LAN整備補助にはスマートフォン向け観光情報提供サービスの整備を併せて行うことが前提となっている。
③原因を解消するための「課題」 【県内地域支援対策】 ○未だ十分に集客効果を発揮していない観光素材である石見神楽(石見)、自然環境を活かした体験型観光(隠岐)を中心とした観光商品づくりや、情報発信に取り組む ○SNS、若者向けweb、情報誌等を媒体として、ターゲットを絞った魅力発信を行う 【閑散期対策】 温泉・食など、冬期ならではの魅力を活かした定番商品の開発 【観光案内板等基盤整備支援】 補助事業の継続実施と補助要件の緩和

## 8. 今後の方向性 (課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

【県内地域支援対策】 ・石見神楽を中心に、石見神楽を取り巻く生活環境、担い手などにもスポットを当て、都市在住の若者や地方に関心のある層にリーチしやすい媒体(SNS、情報誌)を通して情報発信を行う ・情報発信により高まった関心が実際の来訪に繋がるよう、観光商品との連動の仕組みづくりを行う ・スムーズな来訪に繋がるアクセス情報の充実(webサイト、予約サイト等) 【閑散期対策】 ・宿泊事業者との連携による食メニュー、温泉を活用した特典等の新たなサービスづくり(未活用の観光素材がないか、検証を要する) 【観光案内板等基盤整備支援】 ・補助事業の継続。補助要件の緩和について検討する。
--